

瀬戸内海におけるリン・窒素の挙動

～太平洋起源の影響～

瀬戸内海では、1979年度以来、陸からの有機物、リン、窒素の負荷量を削減することによる水質浄化対策が行われてきました。この対策により陸からの汚濁物質負荷量はかなり減少したものの、未だに年間100件程度の赤潮発生が見られるように、瀬戸内海の水質改善状況は思わしくありません。

本ワークショップは、瀬戸内海に存在するリン、窒素の起源を明らかにすることにより、瀬戸内海における今後の水質改善施策はどのようにあるべきかを議論するために企画しました。

日 時

2004年11月29日（月）13:00～17:00

場 所

兵庫県民会館 303号室（3階）
神戸市中央区下山手通4-16-3
TEL 078-321-2131

主催等（予定）

主 催 瀬戸内海研究会議
協 賛（財）ひょうご環境創造協会 （社）瀬戸内海環境保全協会
後 援 環境省 瀬戸内海環境保全知事・市長会議 兵庫県瀬戸内海環境保全連絡会

参加料等

定 員 80名（先着順となりますので、お早めにお申し込み願います。）

参加料 瀬戸内海研究会議会員：2,000 円
一 般：3,000 円

参加申込方法

11月22日（月）までに、裏面の参加申込書にご記入のうえ、FAX、郵送、Eメールにて、事務局までお申し込み下さい。

申込・お問い合わせ先

瀬戸内海研究会議事務局

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1

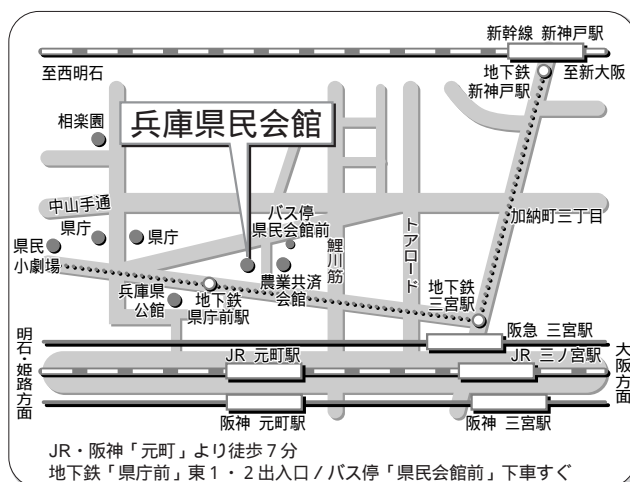
国際健康開発センター 3階

（社）瀬戸内海環境保全協会内

TEL 078-241-7720 FAX 078-241-7730

Eメール：web@seto.or.jp

プログラム、参加申込書は裏面にあります。



プログラム

趣旨説明 柳 哲雄（九州大学応用力学研究所教授） 13:00 ~ 13:10

話題提供 13:10 ~ 16:30

コンピナー：柳 哲雄（九州大学応用力学研究所教授）

瀬戸内海に存在するリン・窒素の起源

石井大輔（九州大学応用力学研究所技官）

豊後水道からのリン・窒素の流入過程

兼田淳史（愛媛大学沿岸環境科学研究センター助手）

紀伊水道からのリン・窒素の流入過程

藤原建紀（京都大学大学院農学研究科教授）

----- 休 憩 -----

紀淡海峡のリン・窒素フラックス

西田修三（大阪大学大学院工学研究科助教授、
わかやま海域環境研究機構）

紀伊水道の栄養塩・低次生産・高次生産の経年変動

上 真一（広島大学大学院生物圏科学研究科教授）

瀬戸内海の望ましいかつ可能なリン・窒素濃度

浮田正夫（山口大学工学部教授）

総合討論 16:30 ~ 17:00

参加申込書

瀬戸内海研究会議ワークショップ

日時：平成 16 年 11 月 29 日(月)

場所：兵庫県民会館 303 号室

所 属 _____

氏 名 _____

<連絡先>

住 所 _____

T E L _____

F A X _____